

新潟をひとつにするのはスポーツだ

定価850円

NIIGATA Sports Magazine

新潟スポーツスタンダード  
マガジン

# Standard

2019 April-May

4・5月 Vol.4

Special Interview

ラグビー日本代表  
パナソニック ワイルドナイツ所属

稲垣啓太

# KICK! PASS! TRY!

## 新潟ラグビーのダイナミズム

新潟県高校ラグビー  
新人戦出場

# 17校

選手名鑑



アルビレックス新潟  
アルビレックス新潟  
レディース  
ホーム開幕戦リポート

# 新潟卓球特集 0.1秒の 攻防

新潟県高校選抜卓球大会出場  
男女

# 32

チーム  
紹介

Standard Eyes

## 新潟から 未来を創れ

第56回全国中学校スキー大会  
クロスカントリー競技

004 新潟ラグビー特集  
**KICK! PASS! TRY!**  
新潟ラグビーのダイナミズム

006 Standard Special Interview  
ラグビー日本代表/パナソニック ワイルドナイツ所属  
**稲垣啓太**

010 Interview  
新潟工業高校ラグビー部監督 **樋口猛**

012 新潟県高校ラグビー新人戦ベスト4紹介  
新潟工業高校/北越高校  
新発田南高校/開志国際高校

016 新潟県高校ラグビー新人戦出場 **17校選手名鑑**

020 新潟女子ラグビーの世界

024 ラグビースクールはじめの一歩  
飛び込もう!ミニラグビー&ラグビースクール  
県内ラグビースクールデータベース2019

026 県内ラグビースクール/部活動紹介  
新潟市ジュニアラグビースクール  
新発田市中学校ラグビー部  
中条ラグビースクール

032 クラブチーム紹介  
LIIユナイテッド/新潟不惑ハーフブラックス  
新潟アイビスラグビーフットボールクラブ  
とらい夢RFCブレイカース

036 初めてのラグビーが面白くなる  
Standard流「超」基礎知識

038 新潟卓球特集  
**0.1秒の攻防**

040 龍崎東寅 (明治大学)

042 新潟県高校選抜卓球大会ベスト4紹介  
新潟産業大学附属高校/北越高校  
開志国際高校/上越高校/新潟青陵高校

050 新潟県高校選抜卓球大会出場  
**32校選手名鑑**

058 カテゴリー別チーム・アスリート紹介  
新発田ジュニア卓球クラブ  
新大クラブ

062 第20回全国中学選抜卓球大会レポート

066 カテゴリー別チーム・アスリート紹介  
新潟大学/増田和雄/金田勉/笹岡光央

073 Standard Eyes  
池谷薫・雅美 (ライフセービング)  
新潟ライジングサンズ (FIDバスケットボール)  
徳田絵美・ヴェスレイ号 (馬術)  
本名栄仁 (レスリング)

082 Standard Eyes特別篇  
第56回全国中学校スキー大会  
十日町と人が創造したクロスカントリー

089 We are アルビレックス  
アルビレックス新潟  
アルビレックス新潟レディース  
2019シーズン開幕戦レポート 他

連載

001 S-motion BEFEEMOSS

002 Athlete FILE 高木まりあ

105 I LOVE SPORTS



全日本での敗戦を成長の糧に  
県内女子ボクシングをリードする

**高木まりあ** (たかぎまりあ)  
◎2003年(平15)1月8日生まれ、村上市出身。高校2年。  
岩船小2年から村上ジムでボクシングを始める。岩船中では陸上の中距離選手として地域の大会に出場した。開志学園高に入学し、昨年6月の新潟県高校総体にて級で優勝。18年全日本女子ボクシング選手権ジュニアの部にて級出場。19年、全国高校選抜ボクシング大会にて級出場。147cm、46kg。

コーナーサイドにたたずんだ高木は両手を包んだグラブでヘッドギアの位置を直すと、軽く口元をゆがめてマウスピースの感触を確かめた。準備を整え、ゴングを耳にする。瞬間的に目尻を釣り上げ、相手に向かってパンチを繰り出す。高木が通う開志学園高校は全国レベルの強豪校。同学年ではただ一人の女子部員である高木の練習相手は男子ばかり。マスボクシング、スパーリングでは147cmの自分より大きな男子部員とこぶしを交える。「自然と大きい選手の方が戦いやすくなるんです」。同じくらいの身長の方がやりづらい...と笑う。目標、欲求は「1つでも多く試合に勝つこと」。昨年12月、初めて出場した全日本女子選手権ジュニアの部1回戦で前田果蓮(福岡・筑前高校)に5-0の大差で判定負けした。同じ高校生に歯が立たなかった。「あれで負けたくない、という気持ちが強くなった」。毎朝5時に起床し、村上市から新潟市へ通学。「ボクシング部がある高校に進学したかった」。進路選択に迷いはなかった。全日本UJ出場時に仁多見史隆監督の指導を受けたこともあり、開志学園高への進学は希望通りだった。チームメートと切磋琢磨し、応援しあう。「部活は楽しい」。仁多見監督が「今後の県女子の中心」と期待するように、将来は県内の女子ボクシングをリードする存在として期待されている。

リビングギャラリーは、未来をつくるアスリートを応援します。



クルマがもらえる コミコミリース!!

**新車が 月々 10,800円~** (税込)

※契約期間満了時に車両引き渡し。※リース内容については店頭で詳細を確認下さい。※画像はイメージです。

COCO SELECT 長岡店 新潟店 上越4WD専門店 ココセレクト 検索

営業時間/9:00~18:00 定休日/毎週火曜・第3月曜 http://www.cocoselect.jp

Standard Special Interview  
ラグビー日本代表/パナソニック ワイルドナイツ所属

# 稲垣啓太

Keita Inagaki

恩師から授かった  
哲学を胸に  
日本代表のポストは  
譲らない

9月20日に開幕を控えたラグビーワールドカップ。初の自国開催とあって、日本代表の活躍に注目が集まる。その中心選手が、新潟市秋葉区(旧新津市)出身の稲垣啓太(パナソニック ワイルドナイツ)だ。新潟工業高校時代の思い出や、日本代表選手としての思考、地元新潟に寄せる胸中を語ってくれた。

撮影◎野本浩一郎 文◎武山智史

# 0.1秒の攻防

[新潟卓球特集]

NIIGATA TABLE TENNIS 2019

誰でも楽しんだことのあるスポーツ—卓球。

ところが一歩、競技に踏み込むと、そこには次元の違う世界がある。

トップ選手のスマッシュは、180km/h。

0.1秒かからずに2.74mの卓球台を抜けていく。

世界ランキング10位以内の選手を男女合わせて6人擁し\*

人気、実力ともに急上昇中の卓球。

新潟の現状と未来を追った。

\*2019年3月現在

撮影◎増井友和





「格好良くて憧れていた」という紫紺のユニフォーム

**Profile** 龍崎東寅(りゅうざき・とんいん)  
 ●1998年12月29日生まれ、新潟県新発田市出身。JOCエリートアカデミーを経て、現在明治大3年。5歳の時に新発田ジュニア卓球クラブで卓球を始める。五十公野小時代は各階級の全日本選手権で優勝。2016年には張本智和とペアを組み、世界ジュニア選手権で男子ダブルス準優勝。172cm、60kg。

# 明治大学 龍崎東寅

Tonin Ryuzaki

撮影・文◎武山智史

0.1秒の攻防  
 NIIGATA TABLE TENNIS 2019

新発田から東京へ、世界へ  
 ハイレベルな戦いに散る火花



寮の敷地内にある練習場で練習に励む

「父が卓球のコーチをしていたので、無意識のうちに卓球を始めました」

静寂に包まれた明治大学卓球部の練習場。龍崎東寅は卓球に興味を持ちはじめたころを思い出していた。龍崎は新発田ジュニア卓球クラブでコーチを務める父・姚天明の影響で、5歳からラケットを握った。父の指導を受けた龍崎はメキメキと頭角を現していく。五十公野小学校時代はパンピ(小学2年以下)、カブ(小学4年以下)、ホープス(小学6年以下)と3階級で全日本選手権優勝を達成。幼いころから全国の舞台で活躍していた。「人よりも負けず嫌いの性格で、『負けたくない』という気持ちで試合にも臨んでいました」と小学生時代を振り返る。

小学校卒業後はJOCが設置したJOCエリートアカデミー(以下EA)に入所する。EAは卓球、レスリング、フェンシングなどの全国各地の将来有望な選手を少数精鋭で鍛え、オリンピックで活躍する選手を育てる機関だ。入所した選手たちはEAのある東京都北区の中学、高校に通学しながら、5年間寮生活を送る。龍崎は当初、EAと卓球の強豪・青森山田中学校への進学の間で悩んでいた。決め手となったのは「海外で活躍できる選手になりたい」という目標だった。「EAに行けば海外で試合することが出来る。それが大きかったです」

EAでは学校から帰宅後、午後9時まで練習。練習後に夕食を取り、11時就寝の生活を送った。「国際人として世界で活躍する人材育成」というEAの理念の下、競技だけでなく語学なども学び「EAでの6年間で人間力や私生活の面でも大きく成長できました」と言う。

帝京高校3年のときには、南アフリカで行われた世界ジュニア選手権に出場。キャプテンを務めた男子団体戦で優勝したものの、試合には出場できず素直に喜ぶことはできなかった。そして気持ちを切り替え臨んだ男子ダブルス。当時中学1年の張本智和とペアを組み、準優勝の栄冠を勝ち取った。張本はEAの5年後輩。今や卓球界の若きホープとして活躍する張本を、龍崎はどう見ていたのだろうか。

「当時から風格があつて、大人と張り合う卓球のセンスがありましたね。EAのころから仲が良いですし、LINEでよくやり取りしています。自分も彼に追いつかなくてはと思いますし、良い刺激になっています」

EA修了後は水谷隼、丹羽孝希ら現役トップ選手を輩出している大学卓球界の名門・明治大学に入学。大学1年から主力として活躍し、インカレ連覇にも貢献した。大学の卓球について「国際大会とは違った雰囲気があります」と語る。

「大学の名前を背負っているんで、負けられない気持ちが大変大きい。以前よりも一球に対する執念が強くなりました。また、大学はチームで戦う団体戦もあります。いかに良い流れを作って次の選手につなげるかを意識していますね」

今年最初の大会となった1月の全日本選手権では、シングルスで3年連続のベスト16入り。国内トップの選手たちに肩を並べべく、さらなる高みを目指す。

「日本のトップレベルの層は厚いです。そこを何とか切り崩し、少ないチャンスをモノにしたいです。世界選手権に出場して、活躍できる選手になりたい」

20歳の瞳は、世界の舞台を見据えている。

# 「忘れられない全中」を実現した 十日町の子どもと大人の「本気」



## Profile

井川純宏氏◎09年3月まで十日町市教育委員会文化スポーツ部スポーツ振興課課長。第56回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技、および09年トキめき新潟国体大会コーディネーター。SAJクロスカントリー技術代表。



## Profile

桑原政司氏◎09年3月まで十日町市立吉田中学校校長。第56回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技・大会コーディネーター。09年トキめき新潟国体では競技委員長を務めた。SAJ(日本スキー連盟)クロスカントリー技術代表。



## Profile

児玉義昭氏◎十日町市スキー協会理事長。第56回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技・競技委員長。09年トキめき新潟国体ではコース係長を務めた。SAJクロスカントリー技術代表。FIS(国際スキー連盟)クロスカントリー技術代表。新潟県スキー連盟クロスカントリー部運営委員。



スポーツ各界展望  
*Standard Eyes*  
新潟から未来を創れ

約90年。人気云々以前に、クロカンが伝統のスポーツとして根付いているのである。日本での人気という、アルペンやジャンプの陰になりがちなクロカンだが、ここ十日町市におけるクロカンは違う。この地でクロカンが親しまれるようになってから

いつも滑走できるよう、コースコンディショニングが整えられている。好きな子どもたちが気軽に訪れ、汗を流せる親しみやすさも併せ持つ。シーズン中は

外へ発信された。吉田競技場は、県内で唯一のFIS(国際スキー連盟)公認クロカンコースであり、国内大会だけでなく国際大会も開催できるポテンシャルを持つ。と同時に、他地域の

大会運営、学校、地域全体の大人と子どもが用意した数々の「仕掛け」が話題となり、今年の中全スキー大会の盛り上がりは県内

外へ発信された。吉田競技場は、県内で唯一のFIS(国際スキー連盟)公認クロカンコースであり、国内大会だけでなく国際大会も開催できるポテンシャルを持つ。同時に、他地域の競技場と比べて生活地域に近く、クロカン好きな子どもたちが気軽に訪れ、汗を流せる親しみやすさも併せ持つ。シーズン中はいつも滑走できるよう、コースコンディショニングが整えられている。

新潟県十日町市。全国的に知られた豪雪地帯である。いや応なしに降ってくる雪との付き合い方は、この土地に根を張る者のDNAに刻まれている。そして、氷雪に閉ざされるからこそ分かる、人との関わり合いの温もり。励まし合い、癒やし合う。

2019年2月4日から同7日にかけて新潟県で開催された「平成30年度全国中学校体育大会・第56回全国中学校スキー大会」(以下、全中スキー大会)は、アルペン競技が苗場スキー場(同湯沢町)で、スペシャルジャンプ競技とノルディックコンバインド競技が石打丸山シャンツェ(同南魚沼市)で行われた。

そして、クロスカントリー(以下クロカン)競技が行われたのが十日町市の吉田クロスカントリー競技場(以下吉田競技場)。

行政、十日町市スキー協会をはじめとする大会運営、学校、地域全体の大人と子どもが用意した数々の「仕掛け」が話題となり、今年の中全スキー大会の盛り上がりは県内外へ発信された。

吉田競技場は、県内で唯一のFIS(国際スキー連盟)公認クロカンコースであり、国内大会だけでなく国際大会も開催できるポテンシャルを持つ。同時に、他地域の競技場と比べて生活地域に近く、クロカン好きな子どもたちが気軽に訪れ、汗を流せる親しみやすさも併せ持つ。シーズン中はいつも滑走できるよう、コースコンディショニングが整えられている。

そして、クロスカントリー(以下クロカン)競技が行われたのが十日町市の吉田クロスカントリー競技場(以下吉田競技場)。

行政、十日町市スキー協会をはじめとする大会運営、学校、地域全体の大人と子どもが用意した数々の「仕掛け」が話題となり、今年の中全スキー大会の盛り上がりは県内外へ発信された。

*Standard Eyes* 特別編

## 平成30年度全国中学校体育大会・第56回全国中学校スキー大会 クロスカントリー競技

全日本選手権、インターハイ、国体と、全国規模の大会を開催してきたクロスカントリースキーの街・十日町市で、全国中学校体育大会が初めて行われた。大会を成功に導いたのは、十日町市ならではの伝統と地域をまとめる精神にあった。

撮影●山田つとむ 文●高野廉

